

平成29年度JICA課題別研修 「アフリカ地域稲作振興のための中核的農学研究者の育成」

6月29日～8月3日にかけて、JICA中部とJISNAS会員大学の協力により、JICA課題別研修「アフリカ地域稲作振興のための中核的農学研究者の育成」を実施しました。平成24年度から始まった本研修も、第2フェーズの最終年、通算6年目となりました。CARDイニシアティブ対象国であるサブサハラアフリカ諸国から、今年度は7ヶ国11名が来日し、当該国の稲作の安定化や増収など課題の把握と解決に向けた研究アプローチについて研修し、各自の研究計画立案に励みました。この研修は、次年度より新留學生制度「食料安全保障のための農学ネットワーク（AGRI-Net）」の一環として実施し、研修参加経験者の中から長期研修（修士や博士の学位取得支援）の候補者を推薦する計画が検討されています。



（江原 宏）

参加国：エチオピア、マダガスカル、マラウイ、ナイジェリア、セネガル、ウガンダ、ザンビア
協力大学：山形大学農学部、茨城大学農学部、新潟大学農学部、宮崎大学農学部、鹿児島大学農学部、国際農林水産業研究センター（JIRCAS）、名古屋大学大学院生命農学研究科

離任挨拶

菊田 真由実 研究員



私は、2016年4月から2017年9月まで、農国センターの研究員として、地球規模課題対応国際科学技術協力（SATREPS）「テラーメード育種と栽培技術開発のための稲作研究プロジェクト」に参加しました。この間ケニアに長期滞在し、ケニア農畜産業研究機構ムエア支所において現地の研究者と共同研究に従事するという貴重な経験をさせて頂きました。農国センターの先生方、研究員、学生、職員の皆様には、博士課程後期課程在籍中を含め4年半、大変お世話になりました。心からお礼申し上げます。

私は、2017年10月より、名古屋大学に新設されたアジア共創教育研究機構に特任助教として勤務しております。活動の主軸はアフリカからアジアに変わりましたが、現地の課題解決に繋がる研究により一層励んでいきたいと考えております。なお、研究は農国センターにおいて行うため、今後も引き続きお世話になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

略歴 2011年高知大学農学部卒業、2013年同大学大学院総合人間自然科学研究科修士課程修了、2016年3月名古屋大学大学院生命農学研究科博士課程後期課程修了、博士（農学）取得。同研究科研究員を経て、2017年10月より現職。

着任挨拶

渡邊 吉子 研究員



2017年11月より農国センターの研究員として着任し、JICA草の根技術協力事業プロジェクト「カンボジアにおける農産物・加工品の安全性向上プロジェクト」の現地調整員としてカンボジアに赴任しております。2017年9月までの過去2年間は、青年海外協力隊員としてカンボジア・カンダール州の青少年と教員を対象に音楽教育の活動をしておりました。この度、再びカンボジアに戻り、別のかたちでこの国の人々と活動できることをうれしく思います。

教授陣や専門家から学び、現地スタッフと協力して、米蒸留酒や野菜の安全性・品質向上に関わる活動を進めて参ります。どうかご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

略歴 2008年米国Wichita State University音楽学部音楽理論・作曲科卒業。ホスピタリティ・福祉・教育の各分野で勤務後、2015～2017年に青年海外協力隊参加。カンボジア・カンダール州教育青年スポーツ局に配属。州内の中学校や青少年センターを巡回し、青少年に音楽指導を行う。